

## 飯山市農業の課題 4 耕作放棄地対策「先祖の田畑を未来に引き継ごう」

### 市の耕作放棄地の現状

飯山市の農地の状況は、2005年農林業センサス調査によれば、実際に作物が作付けされている農地(経営耕地面積)が2060ヘクタール、その反面、耕作放棄地面積は461ヘクタールで耕作放棄地は年々増加傾向にあります。長野県内でも同様の傾向で、全国的にも高い割合となつていきます。

### 耕作放棄地を放っておくと

- 農地が遊休化し、手入れを行わないまま長い間放置してしまうと、
- 雑草・雑木の繁茂
- 病害虫・鳥獣害の発生
- 用排水路などの管理が困難
- 保水など農地のもつ災害

防止機能が低下等の問題がおき、再び農地として使う時、大変な労力とお金が必要となります。

### 農地の遊休化を

#### 防ぐために

「農地は荒らさず耕作すること」が大事です。農業委員や農業センターに相談するほか、地域の実情に応じてさまざまな取り組みが考えられます。

○ 農地の遊休化を地域の問題として捉え、問題意識をもって地域全体での取り組み

○ 認定農業者など担い手への農地の集積

○ 市民農園への活用

### 耕作放棄地調査に

#### ご協力を

国では今後の食料の安定

### 情報委員会が 視察研修

6月6日、都内の板橋区大山町八ッピロード商店街の「とれたて村」と全国農業新聞編集部、中央卸売市場築地市場を視察しました。

「とれたて村」のお店はマスコミでも紹介されており、全国12市町村が参加している共同アンテナショップで、約560mのアーケードに200軒程の店が並びほぼ真中に位置しています。

品物はおみやげではなく、すぐに食べられる自家



用のものが好まれ、5月の人気ランキング50の上位には飯山のスノーキャロットジュース、とうふケーキ、はちみつ、幻の玄米、花などが入っています。当日も、飯山から持参した花や野菜のサンプルが店先に並べられると、多くのお客さんが集まっています。

店長さんの話では、少量多品目の品物で食べ切りサイズがよいとのこと。花豆、ゴマ、里芋の煮物、コンニャク、一合ピンの酒、日持ちする菓子、おやき、米粉パンなども欲しいと言われました。

ほぼ毎週、広場では参加自治体イベントを開催し、飯山市でも既に2回のイベントを開催しており、消費者との接点となつて、より多くのみなさんが飯山へ来てくれることを願っています。

全国農業新聞は昭和27年に農家の代弁をする新聞として始まり、27年「農業農村の活性化につながる情報をたくさん載せているので、ぜひ購読してください」とのお話でした。

的供給を図るためには、優良農地を確保するとともに、耕作放棄地を解消していくことが差し迫った課題として、その現状を的確に把握すべく、すべての耕作放棄地を対象に「耕作放棄地全体調査」を実施することになりました。

調査は11月までに市町村・農業委員会が実施する予定ですが、現地調査や農地パトロールで農地へ立ち入る場合などに際してはご理解とご協力をお願いします。

なお調査の結果に基づき、今後市町村で耕作放棄地解消計画を策定していく予定です。

### 豊かな田畑を

#### 未来につなぐ

私たちの身近にある美しい農村風景と共に、先祖からの農地を、豊かなままの姿で、未来の子どもたちに引き継いでいきたいと思います。

築地市場は都民の台所として、関係者だけでなく観光客でも賑わっています。

今後、市の農産物の販売や都市との交流という面でも、アンテナショップや新聞、マスコミを使って、どんどん飯山から情報発信していくことがさらに重要であると感じました。



### 農業委員の

#### 異動について

6月に農協推薦による農業委員の交代がありました。

山崎信男さん(木島)に代わり、佐藤重雄さん(常盤)が新しく農業委員に選任されました。



ハナショウブ

## 北信州農業道場

### 第1期受講生募集中 「青年農業者自律支援講座」

◎目的 意欲ある青年農業者を地域の中核的担い手として養成していくもので、広い視野、高度な専門知識、課題解決能力を育成する場として開設します。

◎対象者 おおむね40歳未満の管内青年農業者  
◎内容 先進的農業技術・経営マネジメントなどの講義、演習を毎月1~2回実施します。

◎期間 20年8月から2カ年

◎受講希望及び問い合わせ先  
北信農業改良普及センター  
電話 0269-23-0221



## あぜ道だより



農業委員 清水 靖雄  
(柳原地区)

### 遺したい風景

田植えも終り田んぼの緑も一層濃さを増し、稲の葉が風に吹かれ、さざ波を立てている様は何ともいえない爽やかな気持ちである。

一方山裾に目を転ずると、昔の棚田は、米の生産調整後作付けが放棄され、ヨシや雑木が生い茂り、怪しいかぎりである。

そんな景色を見つづ一服しながら「子供の頃は今時分になると、どの家も田の草取りで大勢でにぎわっていたものだが」等と思いを馳せると、お寺の鐘がゴーン。「もう十一時か。」

手伝いに駆け出された子供の頃は早く鐘の鳴るのを待ったものである。この鐘を聞いてお昼の準備でぼちぼちあがるのだが、鉄道の通っている所では、列車の通

るのを見て時をはかったとも聞いている。

さて、正行寺さんでつく鐘は、いつ頃から始まったかは定かでないらしいが、相当古くから鳴らされていたようである。第二次大戦で鐘を抛出させられ、昭和二十五年に富山の高岡で再鑄し、この時が冬場であったので北飯山駅からソリで運んだそうである。

新しく作られた後は、毎年四月二十五日からその年の文化祭まで毎日時を知らせている。地区の中には鐘の音を聞いて誰がついてくるかわかる人もいたり聞く。風の向きによっては斑尾までも聞こえるという。

先人の皆様が築き上げ遺してくれた素晴らしい田園風景と情緒ある農村を、是非後世に引き継ぎたいものである。

